

【ポスター発表】

自助グループにおける女性アルコール依存症者の回復

— 「Group Fit」をめぐるエスノグラフィー

○ 上智大学総合人間科学研究科博士後期課程 氏名 月岡幸 (会員番号 8000)

キーワード3つ：アルコール依存症 自助グループ 女性

1. 研究目的

アルコール依存症者の回復について、最近のアメリカを中心とした北米のアルコール依存症研究は性別・人種・年齢といった人口統計学的な要因はアルコール依存症からの回復の決定的な要因にはならない (Bodin 2006, Humphreys 2004, Kurtz 1997) と結論づけている。これらの一連の研究によれば、アルコール依存症からの回復の決定的な要因については自助グループが挙げられ、自助グループの参加の頻度や長さ (Moos et al 2006)、断酒後の人的ネットワーク (Rush 2002) そして当事者のスピリチュアリティや断酒をしているアルコール依存症者としてのアイデンティティの構築 (Denzin 1993, Humphreys 2004) などがあるという。このような研究の流れの中で、女性アルコール依存症者の回復についてはその人の価値観や回復の度合いに合致するグループのミーティングに参加することが重視され「Group Fit」(Kaskutas 1994, Kurtz 1997, Schmid 2002, Vourakis 1989) の問題に注目が集まっている。

一方、我が国では女性アルコール依存症者が自分の価値観に合ったグループを見つけることは難しい。そもそも我が国のアルコール依存症からの回復を目的とした自助グループは大都市以外は数も限られ、グループの中には中年以上の男性が多く在籍している。女性だけが参加できる女性ミーティングも北米と比較すれば数が多いとは言えない。北米と比較すれば、我が国の女性当事者は限られた選択肢の中でアルコール依存症から回復しなければならないことを念頭に置いておく必要があるだろう。

この研究の目的はアメリカを中心とした北米の研究の成果を踏まえた上で、我が国の女性アルコール依存症者が抱える様々な問題を当事者が自助グループのなかでどのように解決しアルコール依存症から回復しているのかについて明らかにすることである。

2. 研究の視点および方法

研究の視点および方法としては、2010年9月から2013年11月まで首都圏および信越地方の5つのアルコール依存症者のための自助グループに参加し、参与観察とインフォーマルインタビューを行った。ミーティングの参加回数は67回であるが毎回出席するごとにフィールドノートをつけデータを蓄積していった。女性メンバーに対するインフォーマルインタビューは39回、さらに5回のフォーマルインタビューをおこなった。

3. 倫理的配慮

調査については社会福祉学会研究倫理指針を守り、調査協力者・地域・団体等の匿名性を守るため該当する人名・地名についてはすべて仮名にしている。調査協力者に対しては研究発表について文書にて承諾を得ている。

4. 研究結果

①我が国の女性アルコール依存症者を取り巻く環境（自助グループと女性当事者）

まず、アメリカを中心とする北米の女性アルコール依存症者と我が国の女性アルコール依存症者を取り巻く環境はいくつかの相違点がある。まず、我が国の女性当事者は大都市に居住している方を除き、自助グループの選択肢が非常に限られている。また、自助グループ内部には緩やかではあるがジェンダー規範が存在していて女性当事者の行動を制限している。さらに、このようなジェンダー規範を受け入れて順応することが女性当事者の回復の課題として存在している。

②自助グループを出る（ジェンダー規範への抵抗）

自助グループのジェンダー規範を受け入れられない女性当事者にはいくつかの行動が見られた。まず、自助グループ内部で自分の価値観に合致する新しいグループを自分の手で作ることである。さらに、自助グループ外部において新しくグループを作る動きもあった。このような新しいグループはジェンダー規範を払拭し、女性が自分らしく回復できる環境を形成する目的で作られている。

③自助グループにとどまる（ジェンダー規範への順応）

もちろん、自助グループ内部の規範に順応する女性当事者も存在する。しかし、こういった女性当事者は積極的にグループの運営や自助グループ本体のマネジメントに関わり、発言をすることでジェンダー規範を変えていく流れを作り出している。また、女性当事者同士の分かち合いの場である自助グループ内部の女性グループでは、こういった自助グループ内部のジェンダー規範についても意見交換できる場として機能している。

5. 考察

アメリカを中心とした北米の先行研究によれば、女性アルコール依存症者の回復については「Group Fit」が大きな鍵を握っていると言われている（Kurtz 1997）。我が国では大都市以外では自助グループの数が限られているためジェンダーに関係する問題が発生した場合、女性当事者が自分に合った別のグループに移ることは難しい。そこで、女性当事者は自分に合ったグループを作る、もしくは元々のグループに順応していくといった行動をとるのではないかと、と思われる。今後の研究の課題としては、自助グループにとどまった女性当事者がどのように自助グループ内部のジェンダー規範を変えていくのか、もう少し詳しい調査や分析が必要であると考えている。